［生活環境経済学科］の
教授＆学生による
誌上 TALK

身近な問題から国際問題まで、生活　環境の相違をベースに考察していく

国や時代との比較を通じて日本の生活環境を学びます

徐） 雲林さんが思う、生活環境経済学科で得られる学びはなんですか？

雲林） 生活環境経済学科では自分がどのような生活環境に置かれているか、そしてどのようにしてより良い生活環境を構築していくのか、人々が関わりを持つ経済社会の歴史と現状を日本だけでなく様々な国の事情を含めて学べると思います。

徐） そうですね。生活環境経済学科は我々の日常生活に関わる内容を経済学のアプローチで社会経済の仕組みと関係づけて考察する学科です。日本を取り巻く生活環境だけでなく、世界に視野を広げ他の国の状況を知ることで、日本の抱える問題に気づくのではないかと思います。こうした国際比較の視点も非常に重要です。生活環境経済学科の学びを通じて、我々がどのような生活環境を求めているか、他国と比較をしながら日本の良さと問題点を発見してもらいたいです。

生活の中で起きている課題に疑問を抱き、学ぶ意欲が高まりました

徐） 雲林さんは学科の学びの中でどんなことに興味がありますか？

雲林） 私は貧困問題に興味があります。日本のような先進国と言われている国の中でも、裕福な人もいれば衣食住といった最低限の生活ニーズを満たすことができない人もいます。さらに、世界に目を向けるとその格差はより深刻です。例えば新型コロナウイルスは世界規模で拡大しているにもかかわらず、欧米や日本のような早い段階で全国民向けにワクチン接種を受けられる国もあれば、ワクチンを購入するお金がなく、全く接種を受けられない国もあります。同じ人間であるのに、なぜ国によって生活環境が異なるのかについて生活環境経済学科で学んでいきたいです。

徐） 貧困問題はすごく大きな社会問題ですね。今回の新型コロナの感染拡大におけるワクチンの分配問題はその事例の一つです。雲林さんが言うように、貧困問題は一つの国の中に閉じこもっていては理解できない問題です。貧困問題と言っても、一国内の問題として捉えることも、南北問題として捉えることもできます。また、社会保障や教育などの財政、公的制度、民間組織の取組など多様な分析アプローチがありますね。

身近な生活環境問題を世界的な視野で学び、自分の将来に繋げていきたいです。

徐） 雲林さんは学科での学びをどのように自分の将来へ繋げていきたいですか？

雲林） 私にとって経済学は非常に奥深い学問です。同じ経済学といっても、様々なアプローチの仕方が存在することを大学に入ってから知るようになりました。今は貧困問題に関心を持って勉強していますが、貧困や格差の仕組みについて勉強して自身の教養を高めるとともに、一つの課題を徹底的に探究する能力を身につけたいと思います。将来は大学で学んだ知識と国際感覚で、国境という垣根を乗り越えて世界に貢献できるような人になりたいです。

徐） 確かに雲林さんの言うように経済学が網羅する内容は非常に多く、アプローチの仕方も多様です。我々が暮らしている日本の状況だけでなく、世界的な視野を持つことは極めて重要です。基礎的な教養を身につけることはもちろんのこと、ぜひ自分たちが探究心を持って、社会経済の課題解決にも取り組んでもらいたいと思います。

他国と比較をしながら日本の生活環境における
問題点を発見してもらいたいです

徐 一睿 教授
Yirui Xu

国境という垣根を乗り越えて
世界に貢献できるような人になりたいです

3年 雲林 夏紀 さん
Natsuki Unrin

Department of Economics for Life and Social Environment